

めだかだより

草笛学園 2026年 5月号



み〜つけた、の季節です♪

青空が広がるさわやかな季節となりました。お散歩をすると、てんとうむしやかえるなど、子どもたちの好奇心をくすぐる生き物たちとたくさん出会います。生き物だけでなく、いろいろな草花探しにもぴったりの季節、親子で一緒に楽しんでいきたいですね。

◆子どもの「イヤダ！」に、どうつきあう？

子どもの「イヤダ！」に手こずったことは、子育てや保育にかかわった方ならほとんどが経験済みだと思います。なぜ、おとなの言うことを聞かずに「イヤダ」と拒否の意思表示をするのか。これについては、多くの発達心理学者が研究してきました。自我の発達として、一歳過ぎから二歳ごろにかけての発達過程でみられる事象だといわれています。

私が気になっていること。それは、一歳や二歳の時期だけではなく、幼児期や学齢期になっても、あるいは中学生になってからの「イヤダ」に手こずっている相談もよくある、ということです。「イヤダ」は、子どもが小さいときだけではなく、大きくなってからもまだまだ親や先生を困らせることがある、ということ、広く知ってもらいたいと思います。

どんなことであれ、「イヤダ」は子どもの大切な意思表示です。頭ごなしに否定したり、拒否したりするような性格のものではありません。それは何歳になっても同じです。

「お風呂に入ろう」と誘っても、子どもからは「イヤダ」の返事しか返ってこないときには、あわてず、叱らず、イライラせず。「そうだね、お風呂に入るのがイヤなんだね」と、子どものイヤな気持ちに共感するお返事を。どんなイヤダにも、「イヤなんだね」と受け止めて返すのがベストです。まず自分の気持ちをわかってもらうという経験が、子どもにとってコミュニケーションを体感するスタートラインだからです。

～中略～



小さいときに子どもが発してくれる「イヤダ」は、親としてこれから直面するかもしれないもっとドキッとするような「イヤダ」に出会ったときに、あわてず迷いなく「イヤなんだね」と共感できるための練習をさせてくれているんだと思います。

「そうだね」と子どもにかける言葉は、甘やかしとも、言いなりとも違います。むしろ、それ

は、子どもががんばることができる、子どもの気持ちを強くする言葉です。なぜなら、子どもがいちばん求めている共感の言葉だから。おとなにわかってもらえたら、苦手なことでも、イヤなことでも、子どもは乗り越えていくパワーを身につけます。

参考文献『いつからでもやりなおせる子育て 第2章』池添 素 著

※個別相談も行っています。職員とゆっくり話がしたい、子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

🌸6月のめだか教室は…『ふれあいあそび』をします

めだか教室 6月 ①6月 9日(火)

②6月23日(火)

※園舎の工事の都合で当面の間、受付時間を9:50~に変更します。よろしく申し上げます。

◎持って来るもの ・着替え ・お茶 ・タオル(汗拭き)

『参加される皆様へ』 ~ご協力をお願いします~

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。(おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため) 製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡します
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えてください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください。
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください

